Okitama Regional Board of Education Okitama Regional Board of Education Okitama Regional Board of

情報おきたま

置賜教育事務所
指導課だより
令和7年9月　No.134

Education Okitama Regional Board of Education Okitama Regional Board of Education

「学びの未来共創研修会」

令和７年７月７日実施

管理職とミドルリーダーが共に学び、未来を描く研修会

本研修会では、文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長　武藤久慶様を講師にお迎えし、「VUCA の時代」「教育 DX」「GIGA スクール構想」など、これからの学校教育に不可欠なキーワードをもとに、現場と政策の橋渡しとなる熱いご講話をいただきました。
国の施策を背景に、学校の未来を考える本質的な学びの時間となり、参加者一人ひとりの胸に深く響く内容となりました。

参加者の感想から

“主体的に学びに向き合えていない子が増えている”という課題に対して、学びを自己調整できる授業への転換と NEXT GIGA を見据えた ICT・クラウドの活用の工夫が必要と感じた。
小学校校長

“カリキュラムの余白”という言葉が心に残った。働き方改革と部活動の両立に向けた具体的な改善策を考える視点を得た。
中学校校長

VUCA の時代、40%ずつ人的資本が失われていくという言葉に衝撃。学び続ける力を育てる教育の重要性を再確認した。
小学校教頭

一斉授業には限界があると改めて実感。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や ICT で深い思考を支える授業改善が急務だと感じた。
中学校教頭

多様性の包摂×教育 DX という視点に納得。子ども主体を増やすからこそ教えるを磨くという言葉に、授業を見直すきっかけを得た。
小学校教諭

次期学習指導要領の趣旨を知ることで、これからの教育への向き合い方が変わった。人生 100 年・マルチステージの時代に応じて、自分自身のものの見方を見直したい。
中学校教諭

学びの権利の凸凹をなくすために、私たち教師自身がアップデートしていく覚悟が必要。子どもの個性を大切にしたい。
行政職

武藤課長からは、「リアルな学びをデジタルの力で支える」「教育の本質に立ち返る」という力強いメッセージをいただきました。
今回の研修を通して得られた知見や気づきは、学校経営のビジョン再構築、カリキュラム・マネジメントの見直し、校内研修の方向づけなどに直結します。
時代の変化を柔軟に捉えながら、実態に寄り添った改善を続けていくこと。そして、子どもたちの多様性を支え、学びを保障する学校づくりをめざして、今後も研修と対話を重ねながら、各校での実践に結びつけていきましょう。

特別支援教育研修会

令和７年６月６日実施

「みんなの学校」をつくろう
～誰一人取り残さない学校づくりのために～

その子がその子らしくいられる、インクルーシブ教育システム構築への理解を深めるために研修会を開催しました。今年も、大阪市立大空小学校初代校長である木村泰子先生を講師にお迎えしました。多くの学校が校内研修として参加され、チームで子どもたちを支えていくために、自分たちの学校で何を意識し、どのように取り組んでいくかなど、考えていただくきっかけになったように思います。今回の研修を受け、各学校で改めて個別の教育支援計画、指導計画等活用しながら、チームでの支援を進めていただけると幸いです。
ご参加いただいた方からの感想を一部ご紹介します。

これからの社会を担っていく子ども達と向き合うために、自分の考えや常識と思っていたことも、日々アップデートしていく必要があると感じました。また、トラブルが起こった際など、それを学びに変えることや、失敗してもやり直せると思える環境作りなどを、日々の支援の中で行っていきたいと思います。

子ども達が自分のことは自分で決めるということは大切だと感じました。特別支援教育だけに限らず、普段の生徒指導などでも、子どもが自分からどうしたいかを伝えられるような教師の支援や言葉がけが必要だと実感しました。

クラスの中で誰もが「ありのままの自分」でいることが認められ、存在意義を感じられることが大切だと感じました。

サポートが必要な人だけでなく、どんな人も生き生きとその人らしく生きていけるような社会を作っていく人材を育てていくのも、我々教職員の仕事（我々大人の役割）なのだと思いました。

特別支援教育の目的は、「子どもと子どもをつなぐこと」という言葉が印象的です。「大丈夫？」「何に困っているの？」「何か手伝えることはある？」の声がけは明日からやってみたいと思います。

木村先生の「障がいを見ると子どもが見えなくなる」というお話で同じ特性を持っている子どもでも、一人ひとり違い、子どもに応じた「かかわり（支援）」は十人十色であるということを改めて実感させられました。

今まで、本当に不登校の子や発達障害の子ども達の心の声を聞いていたか？考えたか？と自問自答していました。おきたまの教育の最上位目標である「誰一人取り残さない教育の実現」に向けて、お互いをリスペクトして対等な関係を築いていけるよう、教師の役割は何なのかじっくり考えて子どもと向き合っていきたいと思いました。

『みんなの学校』も機会があればぜひご覧ください！

「Okitama　Challenge　Notes」も発行中です。ぜひご覧ください。

10月27日（月）第2回資質・能力向上研究協議会

講師の堀田先生を紹介します。

講師：堀田　龍也　氏

東京学芸大学教職大学院教授・学長特別補佐
リーディングDXスクール事業推進委員会委員長
教育課程部会　教育課程企画特別部会主査代理
デジタル教科書推進ワーキンググループ主査　等

中央教育審議会の委員として、次期学習指導要領の策定に関わり、文部科学省の「学校におけるICT環境整備の在り方に関する有識者会議」では座長も務めました。

堀田氏の「資質・能力は学力より広い意味を持った用語であり、非認知能力などについても検討した上で用いられている」という言葉は、置賜の資質・能力研でも度々紹介しています。

本気で授業を変えたい先生へ

7月、次期学習指導要領についての中間報告がまとめられました。土台となる、現在の学習指導要領で示されている資質・能力は、目の前の子ども達に身に付いていますか？

◆学びをどのように変えるのか？
◆ICTをどのように活用することが望まれているのか？
先生方は、具体的なイメージを持つことができているでしょうか？

新たな時代にふさわしい学びや教師の役割について、講師といっしょに、集まった先生方とともに、会場で対話することで、解像度をあげていきましょう！

ひとりの１００歩より
１００人の１歩！
みんなで訊いてみんなで考え
みんなで変えていきましょう

会場でお待ちしております